

第4章 自治会代表者調査

1 回答者属性等 (N = 142)

(1) 回答者の属性 [資料4.自治会代表者調査：調査票 . 3.(1)(2)]

性別・年齢

- ・回答者の性別は、「男性」が75.4%、「女性」が21.1%で、居住者調査（男性40.4%、女性56.5%）に比べて、男性の割合がかなり高くなっている。

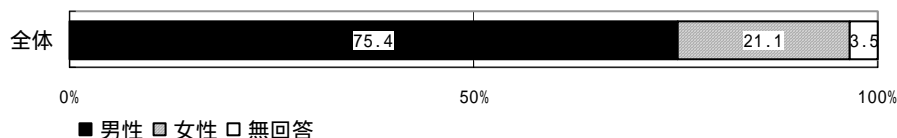


図4 - 1 回答者の性別

- ・年齢は、「65歳以上」が68.3%を占めており、「80代」も5人いる。高齢者の割合についても、居住者調査の回答者（54.6%）より高くなっている。

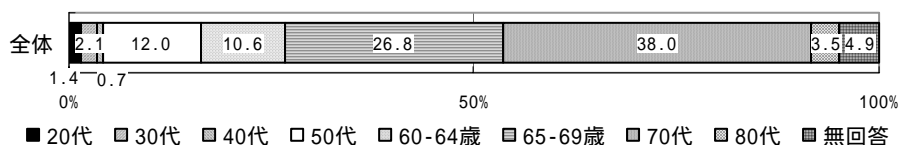


図4 - 2 回答者の年齢

世帯人数 [. 3.(3)]

- ・世帯人数は「2人」が48.6%で最も多く、これに23.2%の「1人」が続いている（居住者調査は1人が37.4%、2人が32.0%）。

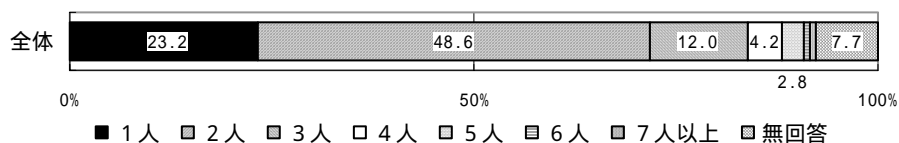


図4 - 3 世帯人数

職業 [. 3.(4)]

- ・「退職・年金生活」と「無職」で70.4%、「自営業」(8.5%)がこれに続いている。

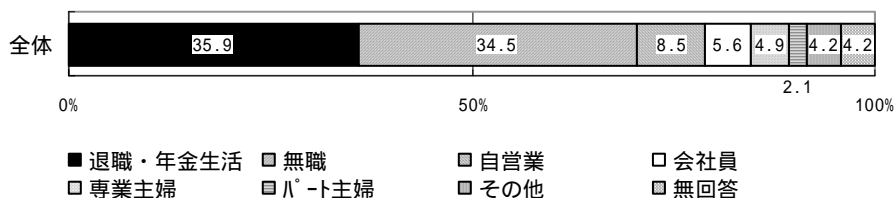


図4 - 4 回答者の職業

(2) 自治会活動の経験 [1]

- ・自治会活動の経験を震災の前後に分けて尋ねたところ、震災以前に 33.1%が「自治会活動に参加」、30.3%が「役員を経験」していた。また同様に、震災以降から災害復興公営住宅入居前に 40.1%が「自治会活動に参加」し、39.4%が「役員を経験」している。
- ・また、ヒアリング調査（N = 95）では、仮設住宅などで、自治会活動の経験があったことを述べているケースもあり、震災後の一連の経験が活かされていることもうかがえる。

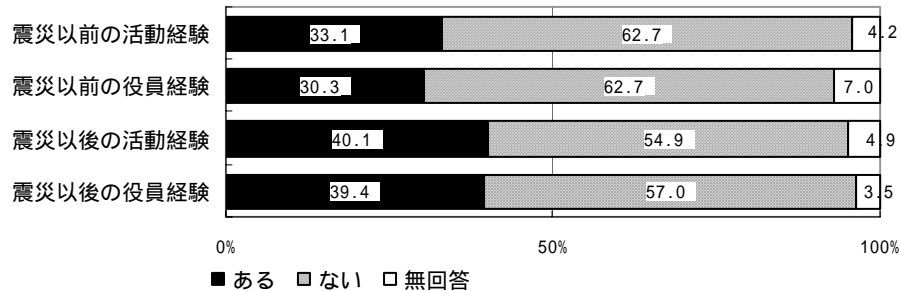


図4 - 5 自治会長の自治会活動・役員の経験

(3) 自治会長になった経緯 [1. (6)]

- ・「住民から推薦」が最も多く、全体の 24.6%を占めており、これに、「自治会等の選挙で選ばれた」(17.6%)が続いている。当番制や抽選などの方法を採用している自治会も 12.7%存在している。
- ・総じて、居住者の合意に基づいた選出がなされていることがうかがえるが、「他になり手がなかったから」「役所などに依頼されて」という理由をあげる者も、それぞれ 10.6%、7.0%あった。

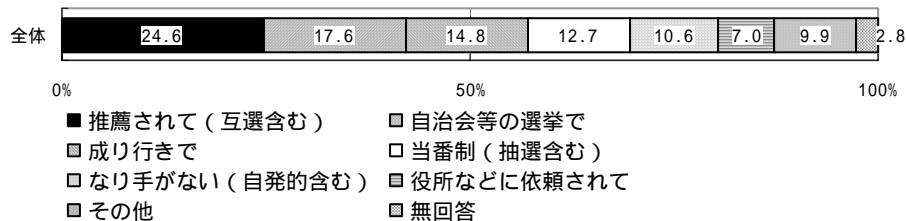


図4 - 6 自治会長になった経緯

2 自治会の概況 (N = 142)

(1) 自治会の範囲 [1. (2)]

- ・自治会の範囲として最も多かったのが、「一団地全体」59.9%であった。これに、「団地内の棟を範囲とする自治会」22.5%、「団地周辺の自治会に含まれる」12.0%が続いている。

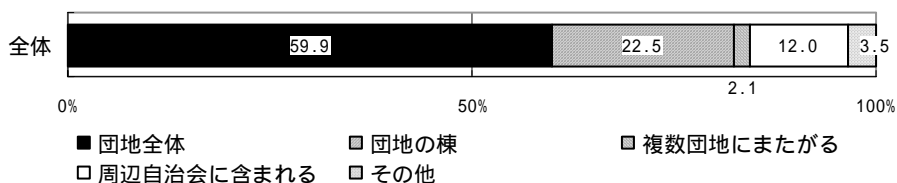


図4 - 7 自治会の範囲

(2) 自治会の発足時期 [. 1 . (3)]

・「入居とほぼ同じ時期に発足」が最も多く 63.4%、これに「入居から一年未満」17.6%が続いている。大部分が、入居から一年以内に発足していることが分かる。

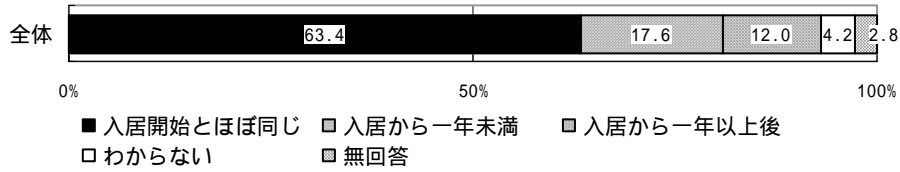


図4 - 8 自治会が発足した時期

(3) 居住者の自治会加入率 [. 1 . (4)]

・団地内の「ほぼ全世帯」が自治会に加入しているという回答が 94.4%で、回答のほとんどを占めていた。

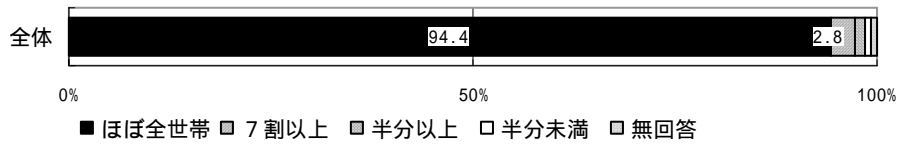


図4 - 9 自治会への加入率

(4) 居住者の入・退去の状況 [. 1 . (5)]

・「あまり変化がない」が 73.9%で最も多く、「入・退居ともが多い(出入りが激しい)」は 9.9%となっている。

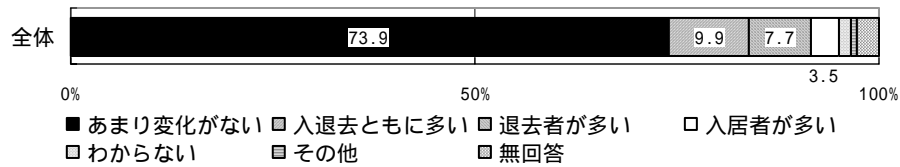


図4 - 10 居住者の入退去の状況

3 自治会の運営状況 (N = 142)

(1) 自治会の運営の仕組み

自治会の規約 [. 2 . (1)]

・86.6%の自治会が「規約」を作成している。

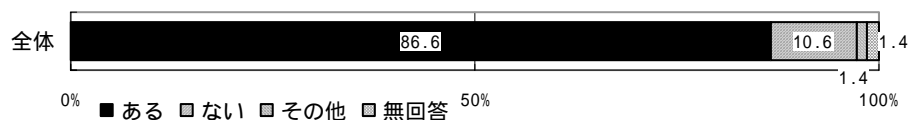


図4 - 11 自治会規約の有無

自治会役員の選出方法 [. 2 . (2)]

・「自治会の役員同士の互選や指名」などが最も多く、全体の 28.9%を占めており、これに「選挙」が 21.8%、「当番制」が 19.0%と続いている。

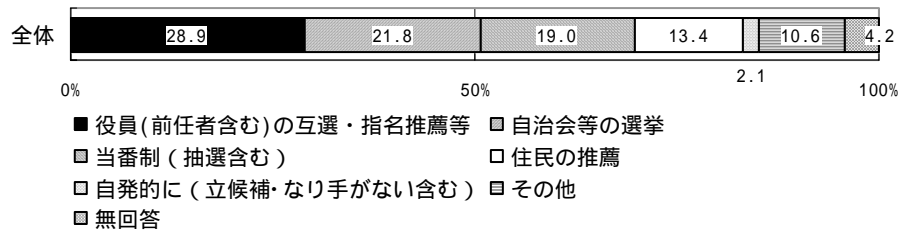


図4 - 12 自治会代表者の選出方法

自治会の会合の種類と頻度 [2. (3)]

- ・ほとんどの自治会で総会・役員会を開催しており、それぞれ 90.8%、83.8%が実施している。
- ・また、総会・役員会以外に何らかの会合を行っている自治会は 60.6%存在している。

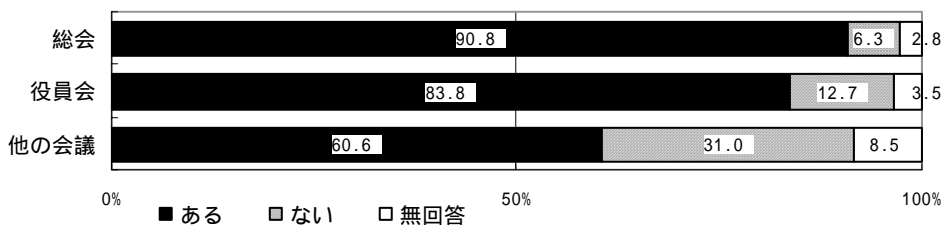


図4 - 13 自治会の会合の種類

居住者の把握 [2. (4)]

- ・87.3%の自治会が「居住者名簿」を作成している。その名簿の管理者は、「自治会長」が最も多く、71.8%を占めている。

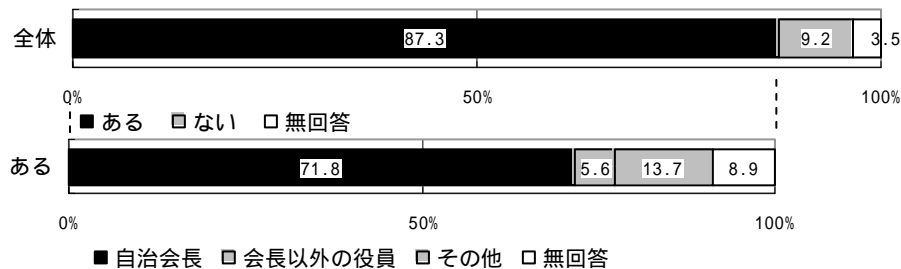


図4 - 14 居住者名簿の有無と管理者

(2) 自治会費等の管理

自治会費 [2. (6)]

- ・85.2%の自治会が「自治会費」を徴収しており、徴収していない自治会は 12.0%であった。
- ・また、徴収している自治会では、共益費と一緒に徴収しているケースが 16.9%あった。
- ・会費の管理については、自治会の「会計」担当が行っているケースが 86.0%と最も多く、「自治会長」は 10.7%となっている。
- ・自治会費の「決算報告書」については、88.7%が作成している。

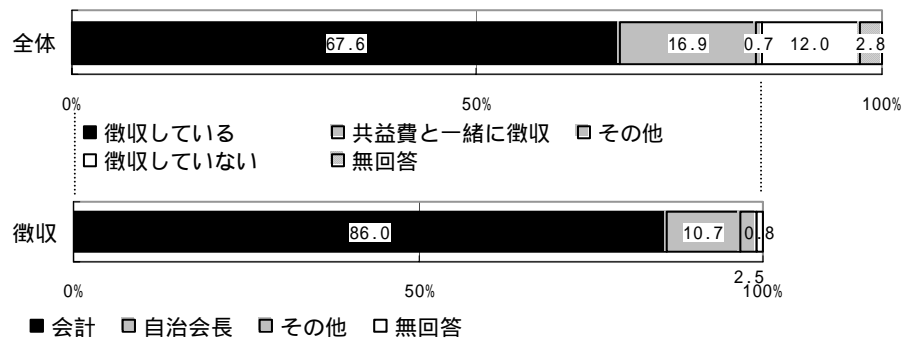


図4 - 15 自治会費の徴収の有無と管理者

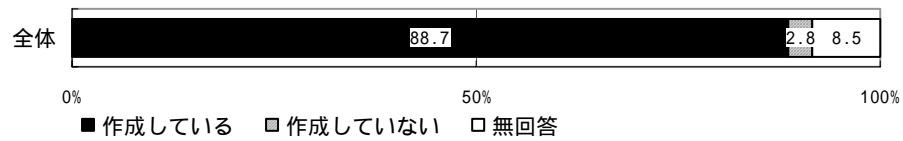


図4 - 16 決算報告書の有無

共益費 [. 2 . (7)]

- ・公営住宅の居住者は、施設の共用部分の維持管理費として共益費を納める必要があり、その管理も自治会が行うことになっている。
- ・90.1%の自治会が、「共益費」の徴収を“行っている”と回答している。
- ・共益費の管理については、「会計」担当が行っているケースが67.2%と最も多い。

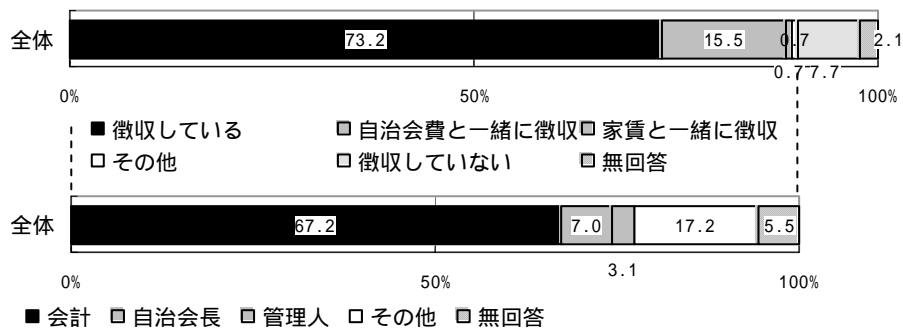


図4 - 17 共益費の徴収と管理者

その他の収入 [. 2 . (8)]

- ・59.9%の自治会で、「自治会費・共益費以外の収入」が“ある”と回答している。
- ・収入の主な内容については、駐車場の維持管理費のほか、活動助成など行政からの活動助成が多く見られる。

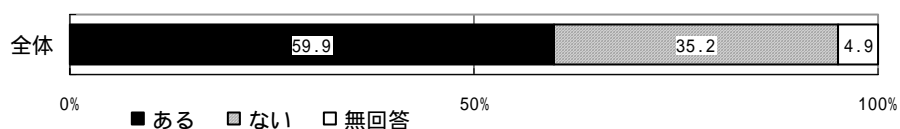


図4 - 18 その他の収入

4 団地内のコミュニティ活動の状況 (N = 142)

(1) 団地生活における共通ニーズへの対応

清掃活動 [. 1]

・「階段・廊下」と「ゴミ置場」の清掃活動は、それぞれ 97.2%、96.5%と、回答のあった自治会のほぼ全てで実施しており、その方法は、図 4 - 20 のとおり「住民の当番制」が最も多く、それぞれ 48.6%、45.8%であった。

・駐車場、公園の草刈もほぼ同じ傾向を示しているが、「業者委託」の割合は少ない。

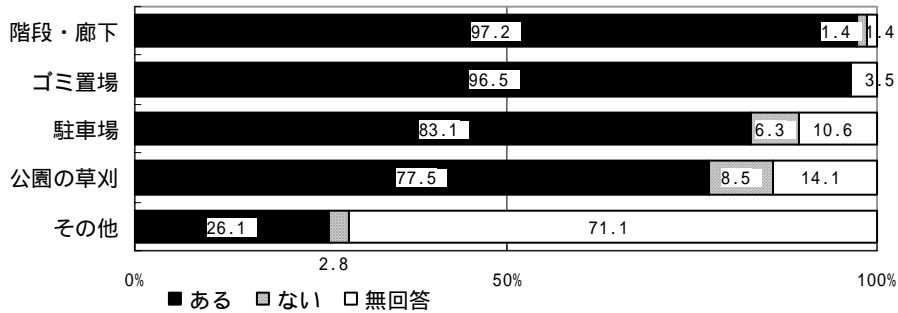


図 4 - 19 清掃活動の有無

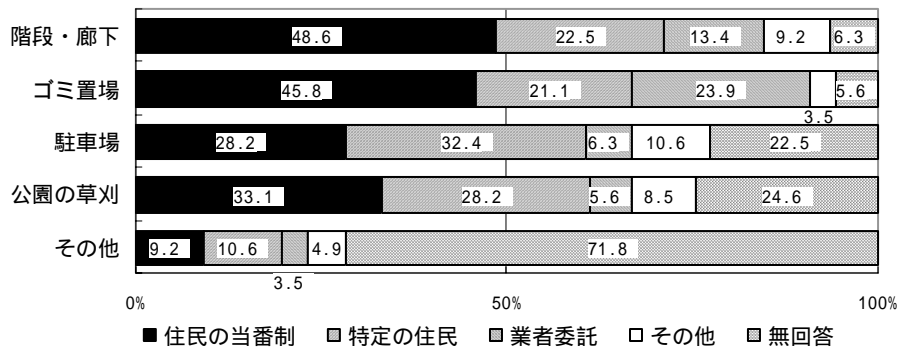


図 4 - 20 清掃活動の主体

防犯活動 [. 2]

・71.1%の自治会が「防犯パトロール」を実施している。パトロールの主な担い手は「特定の住民」が66.3%で最も多い。

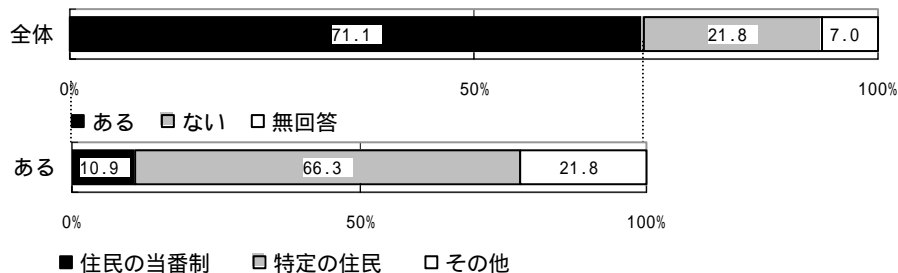


図 4 - 21 防犯活動の有無・主体

情報活動 [. 3]

・回答のあった自治会の94.4%が「掲示板」を“利用している”としている。その管理は「自治会長」66.2%、「他の役員」17.6%となっている。

・「回覧板」については、55.6%が“利用している”と回答している。その管理は「自治会長」が37.3%で最も多く、「他の役員」14.8%が続いている。

・会報は、47.9%の自治会が利用しているが、回覧版・掲示板に比べると利用率が低い。

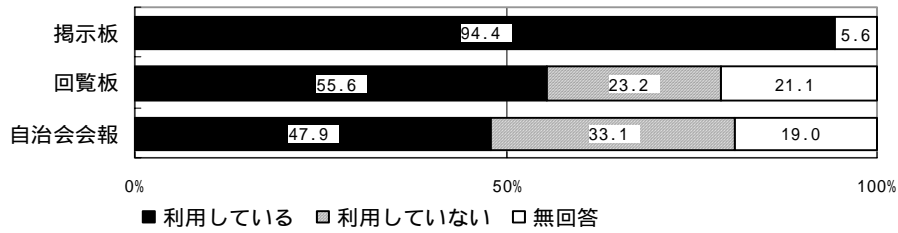


図4 - 22 情報提供・広報活動の有無

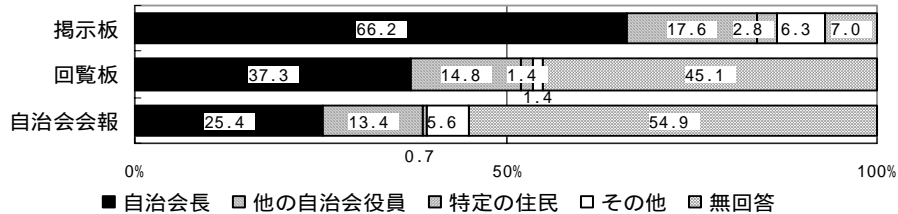


図4 - 23 情報提供・広報活動の主体

5 居住者の状況

(1) 居住者同士の関係・助け合い活動の状況など (N = 132)

団地内の近所づきあい [. 6 . (1)]

・「家族ぐるみのお付き合い」や「仲間同士で親しくつき合う」人たちが「いる」と回答している自治会の割合は、それぞれ78.0%、77.3%であり、比較的にな近所づきあいが活発な自治会が多い様子がうかがえる。

・しかし他方で、そうしたつきあいが「ない」と回答している自治会も、それぞれ7.6%、8.3%あった。

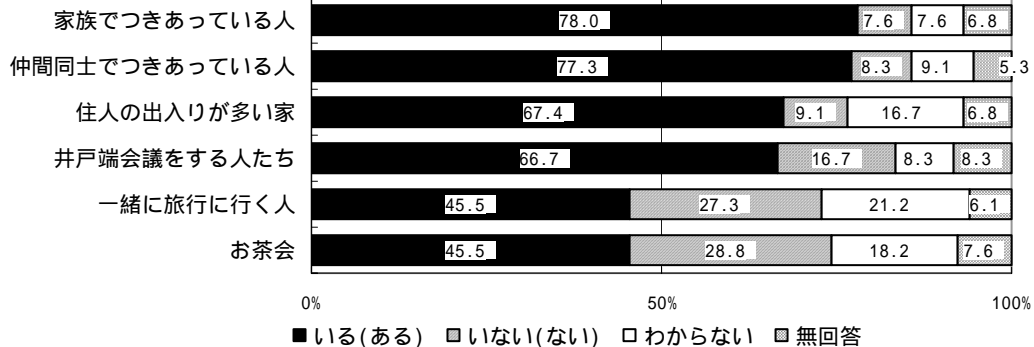


図4 - 24 団地内の近所づきあい

助け合い活動のきっかけ [. 6 . (2)]

・「おかずのおすそ分けをしあう人」が「いる」と回答した自治会の割合は87.1%に達している。助け合い活動につながる具体的な活動や人については、「友愛訪問」「世話焼きの人」「葬儀の助け合い」が「ある(いる)」と回答した自治会が、それぞれ62.9%、62.9%、57.6%あった。

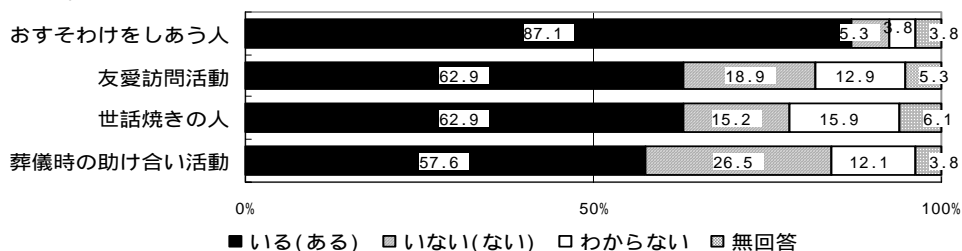


図4 - 25 助け合い活動のきっかけ

距離感 [6. (3)]

- ・居住者の近接性を高める物理的な「しかけ」としての「立ち話できる場所」は、79.5%の自治会が“ある”と回答している。
- ・それほど隣人との心理的な距離をおいていないと見られる人(鍵をかけない開放的な家)が存在している割合は40.9%となっている。

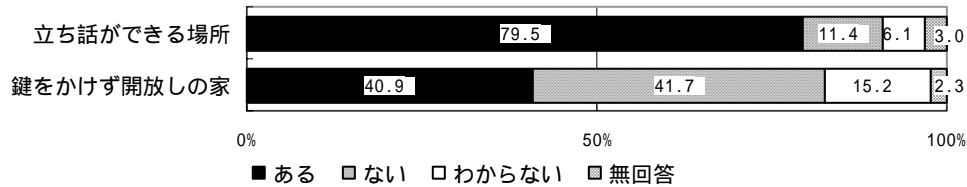


図4-26 距離感

助け合いを促進するキーパーソンの存在 [6. (4)]

- ・助け合いの仕掛け人(キーパーソン)の存在については、「助け合いの中心になる人」「口利きしてくれる人」が“いる”と回答した自治会が、ともに57.6%存在しているが、その他のキーパーソンでは31.8%から43.2%となっている。

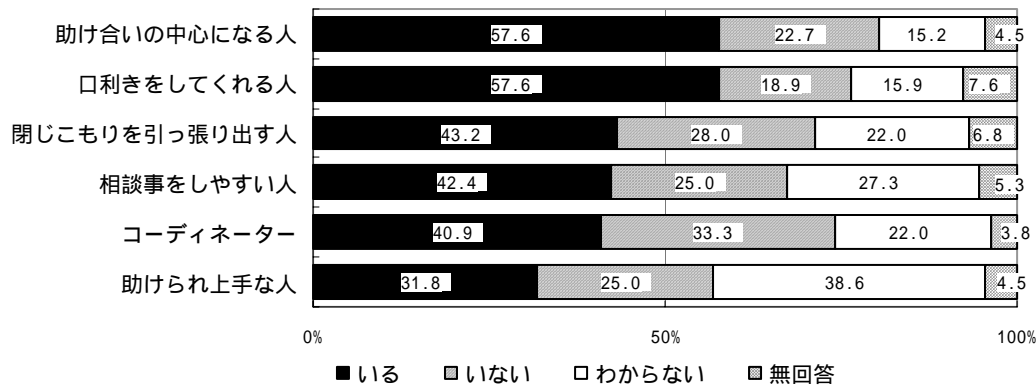


図4-27 助け合い活動を促進するキーパーソンの存在

(2) 団地での生活に対する安心感 [2] (N = 142)

- ・「あなたの団地は安心して暮らせるコミュニティであると思う」に、回答者の67.6%が“そう思う”と回答している。

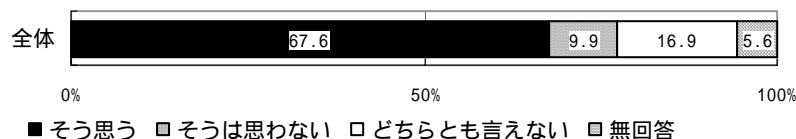


図4-28 安心した暮らし

6 コミュニティ施設の利用状況 (N = 142)

(1) 集会所・コミュニティプラザ

集会所の管理・運営 [1. (1)、(3)]

- ・88.0%の自治会が、「集会所やコミュニティプラザ」が“ある”と回答している。
- ・「集会所の管理主体」としては“自治会”が62.4%で最も多く、“運営協議会”が14.4%でこれに続いている。

- ・「集会所の利用規定」については、集会所があると回答した自治会の85.6%が“作成している”と回答している。

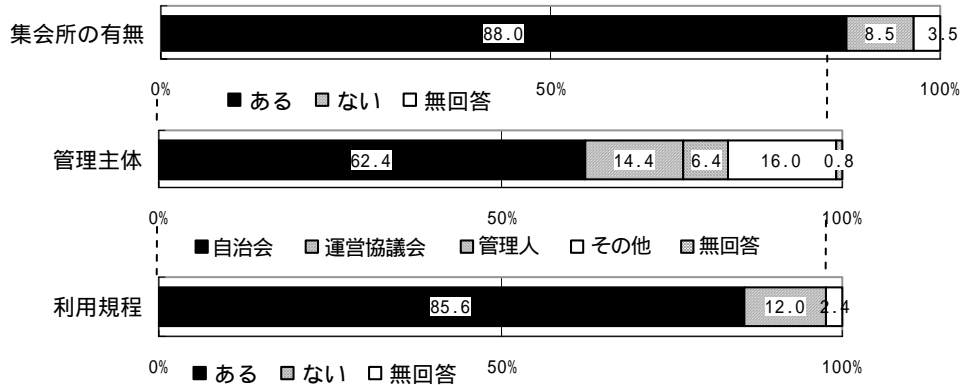


図4 - 29 集会所の有無と管理主体・利用規定の有無

集会所の利用状況 [. 1 . (4)、(5)]

- ・80.8%の自治会が、「集会所の利用料」を“徴収している”と回答している。
- ・集会所の利用頻度については、55.2%が「頻繁に利用されている」と回答している。

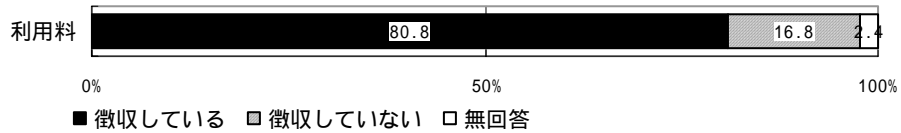


図4 - 30 利用料の徴収 (N=125)

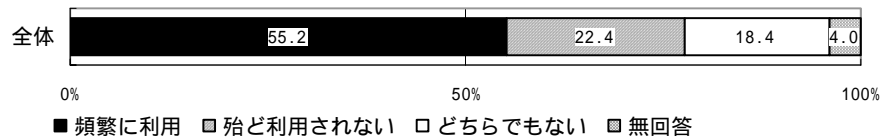


図4 - 31 集会所の利用頻度 (N=125)

- ・また、ヒアリング調査 (N = 95) では、経費の負担が厳しい、人手不足で管理体制が整わないといった運用コストの問題や、利用規定が厳しいことなどといった管理上の問題への言及が見られた。

(2) 公園の有無 [. 2]

- ・公園が「ある」と回答した自治会は55.6%である。

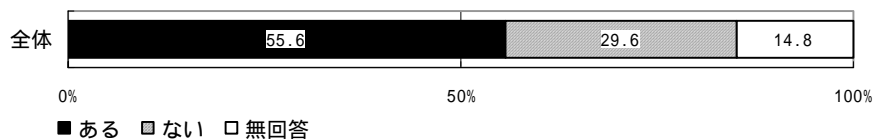


図4 - 32 公園の有無

7 自治会代表者の自由意見等 (N = 95) (、 調査員報告等の自由記述欄等より)

(1) 全般的な傾向

- ・ヒアリング調査記録の全体を概観すると、以下の2つの傾向が見られる。

居住者の高齢化に伴う自治会活動や自治会運営の停滞、及びそうした状態が近い将来起こりうることに對する不安に言及するものが37.9%見られた。

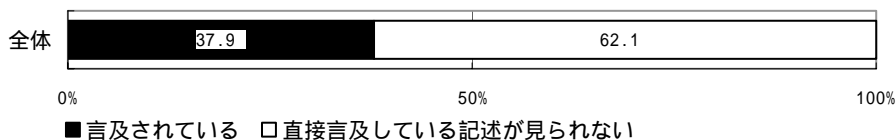


図4 - 33 高齢化への不安に関する記述 (自由記述)

自治会長の高い貢献度・活躍などについて言及している調査員報告は、76.8%に達しているが、その背景として居住者の高齢化による自治会長の業務増などをあげているケースも見られた。

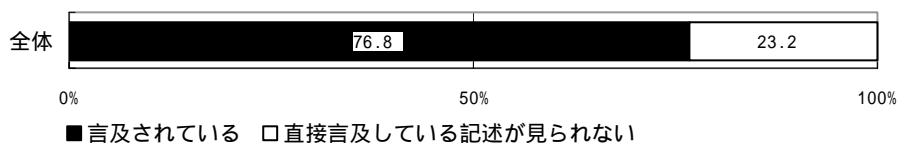


図4 - 34 自治会長の貢献・活躍に関する記述 (自由記述)

(2) 自治会運営のタイプ

- ・調査員報告及び自治会長の意見などの自由回答記述において、自治会の運営が比較的良好に行われている様子が記されているケースは49.5%であった。

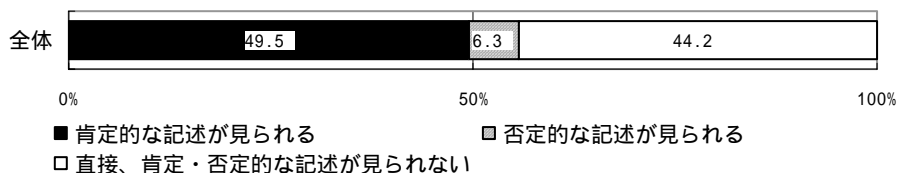


図4 - 35 自治会の運営に関する記述 (自由記述)

- ・自治会の運営が良好な理由として、公的支援者や友愛訪問グループをはじめとするボランティア等、多様な主体との連携を図っていることが多く言及されていた。

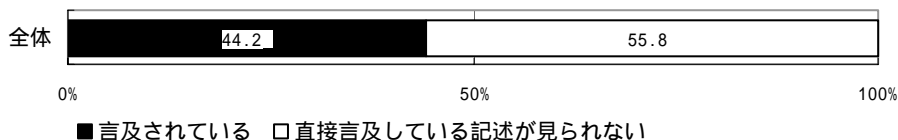


図4 - 36 他団体・支援者との連携に関する記述 (自由記述)